

学会誌『宗教と倫理』 投稿要領

「宗教倫理学会」会員の皆さま

2020年3月15日

学会誌『宗教と倫理』第20号（2020年11月末、刊行予定）に掲載される研究論文、研究ノートの投稿を、下記の要領で募集致します。会員の皆様、どうぞ奮ってご応募下さい。

応募に当たっては、まず所定の投稿申込用紙（<http://jare.jp/journal/contribution.html> 画面末尾の「投稿申込書ダウンロード」からダウンロードした用紙）に、必要事項〔氏名、題名と400字程度の和文、200語程度の英文の要旨（ただし、英文の要旨については、論文原稿提出時で結構です。査読後に論文修正があった場合には、最終原稿提出時に修正の上、再提出をお願いします）など〕をご記入の上、E-mailの添付ファイルでお送り下さい。（電子ファイルでの受付のみとなります。）

ご投稿は、投稿規定と執筆要項に従って、「MS-Word」（doc.あるいは、docx.ファイルのこと）、「Open Document Format」、または「一太郎」（TEXT形式付き）の原稿を、E-mail添付ファイルの形で、下記宛てにPDFでの原稿も添えて、お送り下さい。

（なお、執筆要項の中、第6項 文献の引用例は、一応の基準を示したものに過ぎませんので、文献引用の仕方が異なる場合は、各専門分野で一般化している方式に従って下さい。）

■ 投稿内容は、本学会の趣旨・目的に合った「宗教倫理」に関わる思想的・教義的な研究、あるいは実践的な側面からの論文を受け付けます。

■ 連絡・送付先： 問い合わせ、投稿原稿の送付先は、下記の通りです。

中村 信博 (NAKAMURA Nobuhiro)

E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

〒610-0395

京田辺市興戸 同志社女子大学学芸学部メディア創造学科

Tel: 077-46-8635 (内線 8569)

■ 締め切り日： 下記の通りです。締め切り期日を厳守下さいますようお願いいたします。

・ 投稿申込の締め切り： 5月11日（月）〔E-mail添付で、PDFを添えてお送り下さい。〕

5月29日（金）開催予定の2020年度第2回評議会に諮った上、編集委員会から折り返し受諾の可否についてメールで連絡を致します。受諾「可」の連絡が届いた場合には、まず確認のお返事を下さい。その上で、完全原稿を次の締め切り日までに送付下さい。

・ 原稿提出の締め切り： 7月31日（金）

編集委員会からの査読の返事は、8月31日（月）を目処としていただきますことを予めご了承下さい。

なお、書評の掲載を希望される方は、別途メールにてご相談下さい。

以上、原稿募集のご案内を申し上げます。

発信者：中村 信博（JARE 編集委員会）

[投稿規定]

1. 投稿応募者は宗教倫理学会の正会員であること。
2. 原稿の種類は「研究論文」と「研究ノート」および「書評」とする。
「書評」に関する規定は別途定める。
3. 「研究論文」は40字30行（A4版紙・縦に横書き）の10～13ページとし、「研究ノート」は40字30行（同、横書き）の5～7ページとする。また、400字程度の和文要旨、200語程度の英文要旨と5語程度のキーワード（和文・英文）を付けること。英文原稿も可。
4. 編集委員会は、投稿された原稿ごとに当該分野および関連分野より2名の査読者に査読を委嘱する。
5. 編集委員会は、査読者の報告を受け、掲載・修正・不掲載の判定を行い、その結果と理由を投稿者に通知する。
6. 本学会誌に掲載された論文等の著作権は、本学会に帰属するものとする。ただし、著者自身による学術教育目的などでの利用（複製、公衆送信など）を妨げるものではない。利用の際には出典（学会誌名、巻号、出版年、ページ）を明示すること。
7. 本規定の変更は評議会の議による。
(2001年4月1日施行、2001年7月23日改正・施行、2010年3月25日著作権に関する条項を追加)

『宗教と倫理』書評投稿に関する内規（2008年5月16日施行）

1. 投稿規程第2条に基づき、書評投稿に関する内規を定め、書評の投稿については本内規に従うものとする。
2. 投稿応募者は、次のものとする。 1. 学会の正会員 2. 編集委員会からの執筆依頼者。
3. 取り上げる書籍等は、原則として正会員の研究成果、会員が監修・編集に関わったもの、宗教倫理学会が発行主体となったものとする。学会の講演などで招聘した講師の研究成果も可とする。
4. 書評は、原則として批評が加えられているものとし、単なる新刊紹介は掲載しない。またオリジナルな原稿とする。学術研究の向上に資する内容のものとし、自己宣伝的、個人攻撃的な内容は避けること。
5. 原稿の採否決定は編集委員会がこれを行う。
6. 書評内容について、対象となった研究成果の執筆者・著者から、応答機会の希望がもたらされた場合は、編集委員会がこれを判断し、その原稿の採否を決定する。
7. 原稿は4,000字～6,000字とする。

『宗教と倫理』執筆要項

1. 文体、用語、用字
原則として常用漢字、現代仮名づかい、漢数字もしくは算用（アラビア）数字を用いる。
2. 枚数、書式
 - 研究論文、研究ノート
「研究論文」は40字30行（A4版紙、縦に横書き）の10～13ページとし、「研究ノート」は40字30行（同、横書き）の5～7ページとする。いずれも、註・略号・図表等を含んだページ数。
400字程度の和文要旨、200語程度の英文要旨、5語程度のキーワード（日本語と英語）を付けること。
英文原稿も可。
 - 書評
原稿は4,000～6,000字とする。

著（編）者名、書名、発行所、発行年月、判型、総頁数、本体価格（税抜き）を順に列記する。
書評投稿の申込、原稿の締め切りは、論文投稿に準じて行なう。

3. 章・節区分

章は算用（アラビア）数字で示す。必要に応じてタイトルを付ける。
章をさらに節に分ける場合は、適当と思われる記号を使用する。

4. 註

算用（アラビア）数字で通し番号を付し、脚注、あるいは後注（文末に一括）とする。
略号がある場合は、本文、略号（凡例）、後注の順とする。

5. 数表記、原語挿入、括弧等

漢数字で年号・頁数を表記する場合は、「十」「百」「千」「万」などの文字を用いない。それ以外の漢数字についてはこの限りではない。

○ 一九八〇年 三六五頁（※ 1980年、365頁も可）

× 千九百八十年 三百六十五頁

原語を挿入する場合には、括弧に入れる。また、日本語の単語や語句を「」で括って、原語を挿入する場合には、原語は「」内に入れる。

○ カントの「善なる意志（ein guter Wille）」について

× カントの「善なる意志」（ein guter Wille）について

文末に閉じ括弧がくる場合は、句点（。）は閉じ括弧の外におく。

○ 「最初にカオスが生じた」（ヘシオドス『神統記』116行）。

× 「最初にカオスが生じた。」（ヘシオドス『神統記』116行）

6. 文献の引用例

■ 日本語および漢文文献

上田閑照『生きるということ—経験と自覚』人文書院、1991年、159-183頁。

湯浅泰雄「心身関係論と修行の問題」（『思想』第698号、岩波書店、1982年）、45頁。

H. T. エンゲルハート「医学における人格の概念」（H. T. エンゲルハート／H. ヨナスほか著、加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎—欧米の「生命倫理」論』東海大学出版会、1988年）、19-32頁。
『妙法蓮華経』如来神力品（大正蔵経九巻）、五二頁。

■ 外国語文献

Tom L. Beauchamp and James F. Childress, *Principles of Biomedical Ethics*, 5th ed. (New York: Oxford University Press, 2001), p.63.

Mircea Eliade, "Methodological Remarks on the Study of Religious Symbolism," in *The History of Religions: Essays in Methodology*, ed. M. Eliade and J. M. Kitagawa (Chicago & London: The University of Chicago Press, 1959), pp.86-107.

7. 校正

著者が責任をもって行なうものとする（英文要旨のネイティブチェックも含む）。

採用決定後の校正段階で誤植以外の大幅な加筆・修正は原則として認めない。

8. その他

編集の都合上、執筆要項に照らして、編集委員会の責任において原稿に手を加えることがある。

(以上)